

平成30年度魚病診断結果について

病害対策研究

谷本 剛・湯浅明彦

水産研究課では魚介類の感染症の発生やまん延を防止するため、魚病発生の監視や養殖魚の衛生管理の指導を行っている。

ここでは、平成30年4月から平成31年3月の期間に当課において魚病診断を実施した結果について報告する。なお、魚病診断の対象には、養殖魚以外に種苗生産魚、観賞魚及び河川生息魚も含まれている。

魚病診断結果

淡水魚の魚病診断結果を表1に示した。

淡水魚の診断件数は、アマゴ8件・アユ20件・ウナギ21件・オヤニラミ4件・ニシキゴイ7件であり、合計60件であった。診断件数は前年度に比べ7件減少した（前年度比89.6%）。

アマゴでは、平成30年5月に県外から購入した受精卵の感染によりアマゴ稚魚が伝染性すい臓壊死症（IPN）を発病した。IPNの発病は約20年ぶりである。診断件数では、せつそう病が最多であった。

アユでは、診断件数が前年度に比べ大きく減少した（前年度比64.5%）。4月に塩分が混じる地下水で飼育している養殖種苗で背鰭基部の発赤や尾柄部の出血を伴うビブリオ病が発生した。なお、病魚から分離されたビブリオ菌の血清型はC型であった。また、天然河川の魚道で遡上中のアユが大量へい死する事例があった。病理検査を実施したが、特に異常は認められず、死因は不明であった。8月に養殖種苗で真菌性肉芽腫症が発生した。病魚は体表に出血点を伴う腫れが見られ、患部筋肉内には多数の菌糸体が確認された。3月に県外から導入した海産種苗において、池入れ後3日目で冷水病が発生した。当該種苗は現地地先の海で採捕し、海面小割イケスで畜養されていたものであるが、池入れしてから冷水病が発生するまでの期間が極めて短期間であったことから、海水畜養時に既に冷水病に感染していた可能性が示唆された。

ウナギでは、パラコロ病の診断件数が最も多く、シラスウナギから成鰻まで魚体の大きさに関係なく発病が見られた。パラコロ病魚から分離した菌株中にウナギのパラコロ病の治療薬として承認されている4種類の抗菌剤全てに耐性を示す菌株が見られた。また、12月にシュードダクテロギルスの大量寄生による摂餌不良が原因となり死亡する事

例が散見された。2月に池入れ直後のシラスウナギにおいて、体表に菌糸体が綿毛状に繁殖するミズカビ病が発生した。

ニシキゴイでは、個人池において県外から購入したKHV感染の疑いのあるコイと同居飼育していたコイが死亡したため、PCR法によるKHV検査を実施した。4件のKHV検査は全て陰性であった。なお、死因については、特に病変も見られず不明であった。

海水魚の魚病診断結果を表2に示した。

海水魚の診断件数は、カンパチ1件・ブリ2件・アワビ7件であり、合計10件であった。診断件数は前年度に比べ13件減少した（前年度比43.5%）。

カンパチでは、10月にハダムシの大量寄生の影響で養殖網に体表を擦りつけ、体表の出血を伴う重篤なスレ症状を示す事例が確認された。

ブリでは、8月に県外から導入された種苗において、水面を巡回するなどの異常遊泳が見られた。外観的な異常は特に見られず、頭部を解剖すると間脳に吸虫性旋回病の原因である*Galactosomum sp.*のメタセルカリアが確認されたことから、この寄生による影響が疑われた。

アワビでは、4,5月に種苗生産施設で飼育中の稚貝で衰弱する個体が多く見られ、その後へい死する事例があった。同時期、同施設周辺の海域では、赤潮の異常発生が確認され、赤潮を原因とする漁業被害があったことから、死因はこの赤潮による影響と考えられた。また、夏から秋にかけての高水温期にビブリオ属細菌による感染症により慢性的に死亡する事例が見られた。

表1. 淡水魚の魚病診断結果

魚種名	魚病名	魚病診断件数												計	
		H30						H31							
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
アマゴ	PN (伝染性すい臓壊死症)		1												1
	せつそう病	1		1								2			4
	細菌性鰓病	1													1
	テトラオックス症		1												1
	不明		1												1
	小計	2	3	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0		8
アユ	冷水病													2	2
	ビブリオ病	1									1				2
	細菌性鰓病	1				1									2
	異型細胞性鰓病		1												1
	真菌性肉芽腫症					1									1
	胃真菌症											1			1
	不明	1			1										2
	健康診断 (保菌検査含む)		3		1			1			3			1	9
	小計	3	4	0	2	2	0	1	0	0	4	1	3		20
ウナギ	カラムナリス症				1										1
	パラコ口病	3	3	2						1			1		10
	ビブリオ病										1				1
	シュードダクチロギルス症				1						3				4
	ミズカビ病												1		1
	不明							1			1				2
	健康診断								1		1				2
	小計	3	3	2	2	0	0	1	1	4	3	1	1		21
オヤニラミ	胃真菌症							1							1
	健康診断								2						2
	不明		1												1
	小計	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0		4
ニシキゴイ	KHV診断													4	4
	白点病													1	1
	ダクチロギルス症	1													1
	不明	1													1
	小計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		7
合 計	10	11	3	4	2	0	3	3	4	9	2	9		60	

表2. 海水魚の魚病診断結果

魚種名	魚病名	魚病診断件数												計	
		H30						H31							
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
カンパチ	ベネデニア症							1							1
ブリ	吸虫性旋回病					1									1
	ブリ糸状虫									1					1
	小計	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0		2
アワビ	ビブリオ病					1		1	2						4
クロ・メガイ	赤潮による影響	2	1												3
	小計	2	1	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0		7
合 計		2	1	0	0	2	0	2	2	1	0	0	0		10